

生成AI活用授業例

# 地域課題PBLに応用

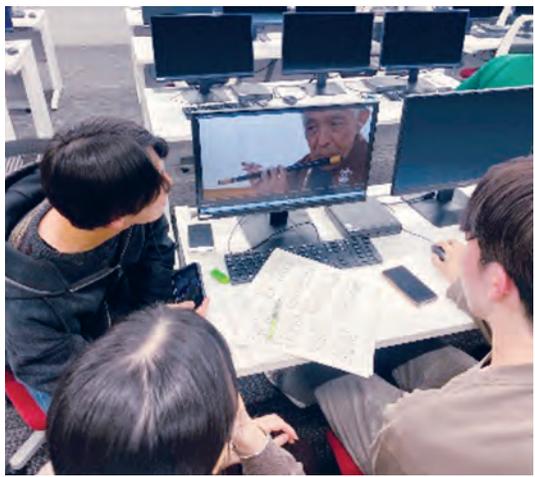
## 常葉大学 専門演習Ⅰ、Ⅱ

常葉大学経営学部 山田雅敏准教授が、担当する専門教育科目「専門演習Ⅰ、Ⅱ」(3年次配当)では、生成AI技術を活用した地域課題解決型の実践的な学びを展開している。この演習は、PBLを通じて、自主的な学びの姿勢と、理論に基づいた実践知の獲得を目指す。

### ○「暗黙知」の解明と社会実装を目指す

同科目の到達目標は、最新のAI技術の背景を把握し、その社会的影響を多角的に理解した上で、ビジネスに応用する力を養うことである。

受講しているのは、人工知能や認知科学に関心を持つ経営学科3年生13人である。同ゼミでは、生成AIを活用した実践的なプロジェクトを通



篠笛の達人の身体動作を分析する学生

し、技術と社会の接点に目を向ける学びを重視し、特に言葉に表現し難い「暗黙知」に着目した研究を行っている。

山田准教授は、言語と身体性の観点から暗黙知に関する研究を行うっており、令和5・6年度には、静岡県富士市とコニカミノルタジャパン株式会社との産学官連携により、製造業の熟練技能者の「感覚やコツ」を発話か

ら抽出し、生成AIを用いてマニュアルを自動作成するシステムを検討してきた。

### ○富士市の伝統芸能継承を支援

令和7年度は当該研究を進展させ、伝統芸能に焦点を当てている。同市では少子高齢化の影響により、伝統芸能や文化の継承が困難となり、継承者の高齢化と後継者不足が深刻な課題だ。

学生はこの文化的課題に対し、生成AI技術を活用して、伝承に必要な感覚やコツなど暗黙知の整理・構造化を目的としたAIカイフ継承マニュアルの作成に取り組んでいる。このアプローチにより、低コストかつ効率的に情報のAIカイフ化を実現し、同市の重要な観光資産としての文化を後世に伝える持続可能な仕組みの構築を目指す。

山田准教授は、こうした取り組みを通じて、学生に生成AIを活用した地域課題の解決方法を学び、社会に貢献する姿勢を育ててほしいと願っている。

### ○授業デザインの具体

授業は、暗黙知を抽出・構造化するための実践的な工夫が凝らされている。

### 暗黙知の言語化と実践

・伝統芸能の継承におけるコツや感覚といった暗黙的な知識について、学生が篠笛の達人による演奏動画を観察したり、実際に篠笛を実践するなどして言語化を試み、その特徴を探る。これにより、熟達者の持つ暗黙知の本質と、その傾向や特徴を分析する方法論を学ぶ。

生成AIによるAIカイフ化の検討・伝統芸能に関する資料や映像、インタビューデータを確認したうえで、生成AIをどのように活用すれば、言語化が促進され、言語情報をより多く抽出する方法を検討する。また、暗黙知をAIカイフとして保存する意義や、将来的なビジネスへの応用可能性についても検討する。

### ○地域学習への発展

抽出した情報(動作やコツ・感覚)を掲載した教材を作成し、地元の子供たちや若者が理解しやすく、興味・関心を持ってもらえるような内容を盛り込む。具体的には、地域の小学校への配布を目指し、後継者不足の課題解決につながる仕組み

づくりを検討する。

### ○学生は実用性と地域貢献に期待

同プロジェクトは現在進行中だが、学生からは「生成AIが伝統芸能の継承にどの程度役立つの

か興味深い」「これから生きていく上で役に立つ実践的なAIの使い方を学びたい」といった声が上がっている。また、「少子高齢化にアプローチし、将来を見越した仕事

の効率化を期待する」「富士市以外でも伝統的に行われている行事への応用可能性に期待している」など、社会実装と地域貢献への強い関心が示されている。